

座・談・会

省エネ住宅に住む

地球環境問題の中でも重大な問題の一つである地球温暖化。地球温暖化を防止するためにはCO₂などの温室効果ガスを削減する必要があります。わが国のCO₂排出量の割合を見ると家庭部門が約2割を占めています。今回の座談会では、家庭での省エネルギーに有効な「省エネルギーに配慮した住宅」を中心に、環境にやさしい住まい方について語っていただきました。



冬暖かく夏さわやかな省エネ住宅

小林

*1

私たちも兵庫県地球温暖化防止活動推進センターは、県民の皆さんにエコライフを実践してもらうための手助けをしていますが、その一つとして省エネルギーに配慮した住宅の紹介があります。省エネ住宅とは「次世代省エネルギー基準」による、高気密・高断熱の住宅のこと。住宅の購入や新築を考えいらっしゃる方にはぜひ導入していただきたいです。

河越

「高断熱」は厚い断熱材で、壁や床、天井を包み、窓や玄関ドアからの熱を逃がさないようにすること。「高気密」は温まつた空気が壁や床、天井から外に漏れないようになります。つまり、冷暖房エネルギーをむだにしない住宅だということです。

森山

住宅で消費されるエネルギーの割合は冷暖房用が25%、給湯が30%、家電関係が25%、照明が20%程度といわれています。省エネ住宅は冷暖房用エネルギーがカットできるわけです。

佐藤

省エネ住宅は冬暖かくて、夏さわやかだということですが、実際住んでいらっしゃる方はどういう感想をお持ちなのでしょうか。

河越

「ここまで快適だとは思っていなかつた」「期待以上のものがあった」という方がほとんどです。また、パイン材など自然の素材を使うと夏は余計に涼しいようです。

森山

その住宅が建っている立地条件にもよりますね。周りに緑が多かつたり、あまり建物が建っていないければ風通しがいいですね。

個人や地域の違いを考えて建てる

河越

省エネ住宅を建てたいというご家族とお話をしていると、ご主人はこう思っています。奥さんはそんなに乗り気じゃないというように、意見が分かれたりする家族もあります。省エネ住宅はいったん暖めてしまふと、なかなか室温が下がらないので、例えば暑がりの人は困る。要するに個人個人で家の快適な状態が違います。そこをよく家族で話し合っておく必要があります。

*1
兵庫県地球温暖化防止活動推進センター

地球温暖化防止活動を促進する拠点として、省資源・省エネルギー行動やグリーンエネルギーの普及促進などを展開。県が認定した地球温暖化防止活動推進員の活動支援を行うほか、全国の地球温暖化防止活動推進センターと連携を図りながら、温暖化防止に関するさまざまな情報収集とその提供を行っています。



河越真介
(株式会社ケイ・エルハウジング
代表取締役、NPO法人ひょうご
新民家21理事)



小林悦夫
(兵庫県地球温暖化防止
活動推進センター・センタ
ー長)

小林

個人個人の違いとともに、地域の違いも考えるべきです。一般に北欧は高気密・高断熱の先進国といわれていますが、日本と北欧では平均気温が違うのですから、向こうの真似をしても仕方がない。どちらかというと向こうは冬の寒さを防ぐことに重点が置かれています。

森山

地域によって省エネ住宅の建て方を変えていくべきということですね。

小林 スウェーデンでは驚いたことに湖の水を暖房に使っています。冬の気温がマイナス10度とか15度ですから、5度の水が暖房に使えるわけです。

河越

私どもが高断熱・高気密の住宅を体感してもらおうと建てた宿泊型のモルハウスの場合、地熱というものが結構あるんですよ。部屋を18度に暖めた状態でいつたん暖房を切つても基礎下で蓄熱して15度を保ちます。もつと地熱を利用することを考えてもいいな、と思います。

森山

自然を利用することで、緑化でしょうね。緑化は日陰も作りますし。

佐藤

自宅の南側のお庭にケナフを植えていますが、緑を通って入る風はやっぱり気持ちいいものです。

住む人間の意識でエネルギー消費量は変わる

小林

住む人の意識でエネルギーの消費量は変わりますね。

佐藤

私は^{※2}兵庫県地球温暖化防止活動推進員の活動として、ファミリーエコチエックといふことをやっています。一番電気を使う時季、例えばお正月などに、徹底して節電しようとした家族と、何も考えなかつた家族の電気消費量を比べてみると、全然違ってくるんですね。意識一つで電気代はカットできます。省エネ住宅に住んでいれば、それだけでエネルギー消費量は抑えられますが、住む人が意識すれば、さらにその効果が上がります。



※2 兵庫県地球温暖化防止活動推進員

県民の地球温暖化防止活動を促進する活動に強い熱意と識見、そして行動力を持った人を推進員として認定。日常生活で地球温暖化対策を実践しながら、イベントやセミナーなどを通じて、ほかの県民に対しても普及・啓発を行います。また、勉強会や研修会などにも積極的に参加して推進員としての資質の向上に努めています。



小林

阪神・淡路大震災からの復興の際、「環境に配慮したまちづくり」が議論されたのですが、そこから尼崎21世紀の森構想というものが生まれてきました。これは尼崎の臨海地域に森をつくり、その中に街をつくるというもので、周辺に住む人たちのアイデアでまちづくりが進行中です。

佐藤

震災後、「自分たちのまちをこうつくりたいんだ」という市民参画の意識が確かに芽生えました。コーポこうべのレジ袋有料化にしても、兵庫県だから受け入れられたのだと思います。今、コーポこうべの買い物袋の持参率は70%です。

何が自分たちに有効なのかを見極める

河越

省エネ住宅に対しての意識も高いと思います。ただ、一口に省エネ住宅といっていろいろあって、情報も氾濫していますから、何がいいのか悪いのかが一般の方には分かりにくいと思います。建てる人が建てる場所や家族構成、暮らし方などをきちんと確認した上で、自分たちに合った省エネ住宅を取捨選択しなければいけません。

佐藤

主婦の立場から言えば経費の問題もありますよね。いくら機能がすばらしくても、予算が合わなければあきらめないといけませんし。

森山 住宅というものは住まい方と対応させなければなりません。設備も使う側の意識で使い方が変わります。まずは一通り勉強して、何が自分たちには有効なのかを見極める必要がありますね。

河越

例えば耐震性や高齢者に対する配慮、あとはデザイン性など省エネ以外にも家の重要な要素はたくさんありますから、省エネだけに特化するとバランスが悪くなります。

森山

私はドイツの大学にいたことがあるのですが、その大学の建物が夏になると日よけのためにいつも窓の外の腰壁にある金属のブラインドを窓の位置まで一斉に上げるんです。途端に部屋が真っ暗になるのですが、ドイツの人はそれでいいんですね。



森山正和
(神戸大学工学部建設学科教授)



佐藤和子
(兵庫県地球温暖化防止活動推進員)

小林 日本だとそうはいかないですよね。欧米人は間接照明でも大丈夫なんですね。でも日本人は明るくないと気が済まない。

佐藤 今こそ、日本人の意識改革が必要なかもしませんね。省エネ住宅が、環境にやさしい生活というものを考えるきっかけになればいいですね。

情報源を活用して知識を蓄える

小林 兵庫県では省エネ住宅を建築する際にご利用いただける県民住宅ローン(環境配慮型住宅ローン)を用意しています。

佐藤 そういう情報も含めて、省エネ住宅に関する情報はどこに行けば得られるのかが分かりません。どんどん新しい技術が開発されていくでしょうし、今すぐに建てるなくとも、知識として情報を蓄えておくことが大切だと思います。

河越 住まいについての教育というものが日本では一切されていません。住宅に関する勉強がしたいと思っても住宅展示場ぐらいしかありません。家づくりのセミナーや完成現場見学会などの参加者を見ても、ほとんどもう家を建てられた方のほうが多いんです。家を見て初めて勉強しておかないと、とあせるわけです。でもやっぱり家を建てる前に勉強してほしいですね。住宅に関するホームページなど、情報源をうまく活用してほしいです。

森山 環境に関する知識を蓄積した上で、自分たちの生活を見直し、自分たちに合った住宅を考え、建てて、省エネを意識して生活することが大切ですね。

小林 人間は生きているだけで環境を破壊しています。それを自覚して少しでも地球にやさしい生活を実践してほしいと思います。

*4 省エネ住宅に関する情報サイト

- (財)建築環境・省エネルギー機構
<http://www.ibec.or.jp/>
- (財)省エネルギーセンター「smart+comfort NET」
<http://www.eccj.or.jp/scnet/>
- 住宅情報提供協議会「環境に配慮した住宅」
<http://www.sumai-info.jp/sustain/>
- 神戸市すまいの安心支援センター「すまいるネット」
<http://www.smilenet.kobe-jk.or.jp/>

*3 県民住宅ローン(環境配慮型住宅ローン)

兵庫県内に住宅を取得しようとする人で、住宅金融公庫の融資だけでは資金が不足する人を対象に県が実施する融資制度。地球環境にやさしい「省エネルギー住宅」を建てる場合に利用できます。融資額は100万円以上1,000万円以内。住宅金融公庫の基準金利で融資されます。返済期間は25年以内。

詳しくは<http://web.pref.hyogo.jp/minjyuu/si-kenmin.htm>へ。